

多田謡子

反権力人権基金

News

No.14 2020/06/10

発行・多田謡子反権力人権基金運営委員会

<http://tadayoko.net>

2019年12月14日

第31回受賞発表会を開催しました



夭折した故多田謡子弁護士の遺産をもとに出発した多田謡子反権力人権基金は、2019年12月14日、東京・お茶の水の連合会館に70名が参加して、第31回反権力人権賞受賞発表会を開催しました。

受賞発表会では、受賞した、反天皇制運動連絡会（反天皇制運動）、関西救援連絡センター（弾圧に反対し冤罪と闘う救援運動）、エリザベス・アルオリオ・オブエザさん（非人間的な入管行政との闘い）から講演を受け、基金から多田謡子の著作「わたしの敵が見えてきた」と賞金20万円が贈られました。

発表会の後は、恒例となった記念パーティがなごやかにひらかれて、受賞者のほか、参加者された皆さんからの発言もうけて交流を深めました。

コロナウイルスのパンデミックは終息が見通せず、世界中で貧困と格差が拡大するなかで自由と人権をめぐる状況はますます厳しさを増していますが、多田基金は困難に立ち向い続ける皆さんに連帯し、本年も12月19日に受賞発表会を開催します。



多田基金は継続のためのカンパを呼びかけています。

第31回受賞発表会

2019年12月14日 連合会館（東京・お茶の水）

反天皇制運動連絡会

（反天皇制運動）



天野恵一さんは「反天連は賞をいただくことに慣れてないので、すごく戸惑いました」と述べて笑いを誘ったあと、街宣カーが「殺せ！殺せ！反天連」「殺せ！

殺せ！天野」と街を流すような状況があり、今回の天皇代替わり反対闘争でも「反天連を殺せ！」という横断幕がデモ隊に向けられた。反天連は、数十年間にわたって、誹謗され、人権を蹂躪されている「被入権蹂躪ナンバーワン団体」であり、反天連に対する人権蹂躪の事実を見ないでは、今の社会の本当の実態を見たことにはならないと述べました。

1984年、天皇ヒロヒトのXデーが近づき、社会全体に服喪と自粛が強制されていた中で、そうした時代に抗うかたちで反天皇制運動連絡会は結成されました。その年の12月23日には、「山谷越冬闘争を支援する有志の会」の仲間であり、寄せ場の映画を撮っていた映画監督の佐藤満夫さんが、山谷で暴力団右翼に刺殺されました。波乱万丈の大変な時代のスタートでした。

天野さんは、そうした時代のなかで、多田謡子が天皇制に反対する集会やデモで、警察の弾圧から参加者を守るための監視弁護を引き受けていたことを紹介しました。1986年2月の反紀元節闘争で天野さんなど4人が逮捕されたときには、渋谷署まで弁護士接見に来てくれたと述べました。その1か月前に、山谷争議団で活動していた山岡強一さんが暴力団右翼に眉間をピストルで撃ち抜かれて殺された直後のデモでした。

多田との接見は、「何度か逮捕経験はあるが、あんな楽しい弁護士接見は生涯に一度」の経験でした。監視弁護の最中でもブロック塀に乗っかり、ブーツを履いた足をブラブラさせ、楽しげに座っていた多田の様子が紹介されると、会場はあたたかな笑い声に包まれました。「時代は深刻でしたがけっこう楽しく闘っていたのです」と天野さんは述べました。

完全なフレームアップだった滝田事件では、逃亡

を助けた人を洗い出すとの口実で全国各地でガサ入れが繰り返され、逮捕後の滝田救援会の人びとのつながりがベースの一つとなり反天連の運動の土台となったと天野さんは述べました。寄せ場でもフレームアップとの闘いでも、社会運動の内部でさえ広げることの困難な、一見孤立したかのような少数の人びとの運動を、ひるまず継続するなかから反天皇制運動をつくりあげてきた天野さんたちの確信が伝わってくるお話でした。

最後にもう一度、天野さんは、今では「反天連」という言葉は、それを構成する団体や個人を超えて、反天皇制の運動全体をさすものとして使われ、天皇に異を唱える人間に対するラベルとして使われている。公然と天皇制に反対して殺された佐藤満夫や山岡強一ほかの人びと、死んでいった人びとを含めて、反天皇制運動全体がこの人権基金を受賞したのだと思うと述べてお話を終えました。

関西救援連絡センター

（弾圧に反対し冤罪と闘う救援運動）



関西救援連絡センターは、1969年秋、東京での救援連絡センター結成に触発された大阪、京都、兵庫在住の大学教員など11名が呼びかけて結成され、今日まで半世紀以上活動してきました。

登壇した永井美由紀さんは、関西救援連絡センターの機関紙の創刊号(1969/10/08)と最新号(348号・2019/12)を配布し、解説しながらお話されました。

創刊号には1969年の大阪における90件以上の弾圧状況がリストとして掲載されていました。当時、大阪では大阪大学、関西大学、大阪市立大学など多くの大学で闘いが続いていました。逮捕されても連絡できるセンターがなく、弁護士選任もできないまま起訴される可能性すらある状況の中で、逮捕されたとき、まず連絡することができるセンターがどうしても必要だったのです。

デモや集会に行くのが普通の時代でした。多くの学生は、「完全黙秘」が何のことかわからない、連

捕されたらどのように行動するか、考えたこともない人たちでした。未成年者は、身元・年齢がわかると親元に連絡され、鑑別所に送致されることもありましたが3泊4日は何としても完全黙秘というのが合言葉になりました。当時は、最初の勾留72時間で釈放されることも多かったからです。

その後、運動の後退期には闘いごとに組織された救援会もなくなり、内ゲバの影響で党派が派遣していた専従者が失踪するなど、救援連絡センターにとっては困難な時期を迎えます。その頃、事務局を担うことになった永井さんは、関西での弾圧状況、弾圧との闘いを知らせる機関紙の発行を続けるなど、活動を継続してきました。

現在、関西救援連絡センターの活動は隔月に発行する機関紙を配布することが中心になっています。最近では、松本健次さんという確定死刑囚が、再審請求中は死刑執行されない権利を確認する行政訴訟など、メディアには載らないが知らせなければならない情報を掲載することを心がけてきました。最新号には、連帯労組閩生支部をめぐる18件もの弾圧と、和歌山、大阪、京都、滋賀の4府県にまたがる7つの裁判についての一覧表が掲載されています。閩生支部はこれまで何度も刑事弾圧を受けて委員長以下の幹部が逮捕されてきましたが、今回の弾圧でも、委員長はすでに450日を超える（現在は19ヶ月超）長期勾留の中で闘いを継続しています。

「今、何が起きているのか。伝えなければならぬことをわかりやすく伝えていきたい」

「国家と向き合い、国家とまじめに喧嘩をしていた、そういう時代があった。その緊張感を持続すること。そして国家と、弾圧としっかり向きあいつづけることが必要だ」と述べて永井さんはお話を締めくくりました。

エリザベス・アルオリオ・オブエザさん (非人間的な入管行政との闘い)



入管収容所を望む高台からメガホンで「Hello! we love you」と呼びかけると、収容された人たちから「Hello!!」という声が風に乗って返ってきます…。みずからも仮放免中でありながら、生活のすべてをかけて、入管に収容された在留外国人のために闘っている、エリザベスさんを紹介するビデオが最初に上映されました。 <https://bit.ly/2ZoWMwb>

登壇したエリザベスさんは、駆けつけたたくさんの仲間、恩人を一人一人紹介しました。皆、在留資格を持たない外国人を長いあいだ支援してきた人びと、エリザベスさんの理解者でした。1991年に来日したエリザベスさんは難民申請が受理されず、2回、約2年間収容されながら収容所の中で闘い、仮放免されても、全国の入管収容所に、毎週何度も通って仲間を励ます闘いを続けてきました。「2011年につかまった。中に入ると、『いつも面会に来てくれる人だ。あなたも在留資格がなかったのか』と驚かれた。大きな部屋に14人も入れられ土日には鍵がかかる。ピンポンを押しても誰も来ない。お医者さんも来ない。奴隷じゃないんだよ！みんな人間だよ！」

自殺を図る仲間も出るなかで、不当な扱いへの抗議を続けたエリザベスさんは、7カ月間一人部屋に隔離されました。毅然と抗議を続けるエリザベスさんを見て、皆が立ち上がることを入管当局が恐れたからです。

「在留資格のない外国人は住民票もないけど日本に住んでいる。なのに仕事もできない。なんで？ どうやって食べるというの？」

「収容中に私を見た医者は、日本の税金は使えないと言った。でも、私たちも税金を払っている。なんで差別するの！みんな同じ！」

「ベトナム人はブローカーに何百万もお金を払って日本に来て、1ヶ月2万円か3万円。日本政府もブローカーだよ」

「日本人と結婚したガーナ人は、収容されて送還された。2人の子供と一緒に残された日本人の妻はうつ病になった」

「日本語しか話せない子供が仮放免されて大学まで行っているのに、収容所から出られないお父さんもいる。聖書には、家族は離れ離れにしてはいけないと書いてある」と、クリスチャンであるエリザベスさんは話しました。

全国の入管収容所でハンガーストライキが広がり、命を落とす人が出るまでになり、2019年には少しずつ仮放免が認められるようになりました。しかしその多くが、わずか2週間程度の超短期間で再収容されている実態があります。

「日本は安倍さんのものではない。神の作った世界では人間はみな同じ。(それなのに)なんで！日本人のNPOはなかなかまとまらない。まとまって頑張らないと安倍はやめない」とエリザベスさんは話しをつづけました。

多田基金の詳しい情報は右のページでご覧いただけます。

<http://tadayoko.net>

第32回多田謡子反権力人権賞 候補者推薦のお願い

2020年6月

多田謡子反権力人権基金運営委員会

本年度も、下記要領で多田謡子反権力人権賞の候補者の推薦を受け付けます。自薦、他薦は問いません。多数のご推薦をお待ちしています。(これまでの受賞者は当基金のホームページで閲覧できます。)

・賞の内容

多田謡子の著作「私の敵が見えてきた」および金20万円の贈呈

・選考基準

国家権力をはじめとしたあらゆる権力に対して闘い、自由と人権を擁護するために活動している個人または団体

・推薦方法

自薦、他薦とも可。候補者名と活動分野の簡単な紹介を付して、文書で下記住所に郵送、FAXまたはe-mailでお送りください。

・推薦締切

2020年9月30日

・推薦受付先

〒105-0004

東京都港区新橋2-8-16

石田ビル5F 救援連絡センター気付

多田謡子反権力人権基金運営委員会

TEL 03-3591-1301

FAX 03-3591-3583

e-mail web@tadayoko.net

お問い合わせにはできるだけe-mailをご利用ください。

なお、受賞者には受賞発表会での講演をお願いいたします。

12月19日(土)受賞発表会を開催します。

●第32回多田謡子反権力人権賞受賞発表会

●日時 12月19日(土) 午後2時~5時

●場所 連合会館201号室

東京・御茶ノ水駅から徒歩5分

●発表会后、同所で記念パーティーを行います。

●発表会、パーティーとも参加費無料です。

※受賞者決定後、詳細をお知らせします。



基金継続のための寄付のお願い

郵便振替用紙を使った振込み

寄付と明記し、氏名、住所をお書き下さい

口座番号 00110-2-356484

口座名称 多田謡子反権力人権基金

金融機関の口座からの振込み

◎記号・番号を使った振込み

・記号 00110 ・番号 356484

◎店名(店番)を使った振込み

・銀行名 ゆうちょ銀行

・店名 〇一九店(ゼロイチキュー)

・店番 019

・預金種目 当座

・口座番号 0356484

・タダヨウコハンケンリョクジンケンキキン

(金融機関からの振込ではお名前、ご住所がわかりません。)

メールでお知らせいただければ領収証をお送りします)

多田謡子反権力人権基金 News

No. 14 2020年6月10日発行

編集・発行 多田謡子反権力人権基金運営委員会

〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5F 救援連絡センター気付

TEL 03-3591-1301 FAX 03-3591-3583 e-mail web@tadayoko.net